

## そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学附属病院 初期研修医 大塚優治

日ごとに秋の気配を感じる日々の中、そよかぜ診療所にて研修をさせていただきました。最初は初めて訪れる土地に不安を抱いていましたが、岡本秀樹先生、静子先生、黒瀬先生をはじめ各スタッフさん方が温かく受け入れてくださり、大変快適に研修させていただきましたことを初めに感謝申し上げます。ありがとうございました。

そよかぜ診療所で研修するにあたり、特に訪問診療の実際を学びたいと思っていました。最初は静子先生と途中からは、私と看護師や事務の方と訪問診療を行いました。特に印象に残っていることは、「一人ひとりの生活や価値観は異なっており、その人にとって最適な治療は何なのだろう?」と考えることでした。病気に対して投薬することは簡単ですが、薬の副作用で活気が落ちるといった場合に、本人にとってどちらが幸せにつながるのかを考え、あえて投薬しないことや別の方法を考えるといったことがとても多くありました。お家へ上がらせてもらい、生活の様子も見る状態での診察でより病気ではなく人を診ているという実感を得ることができました。その患者さんだけでなく、そのご家族との生活を含め、様々な相談に乗っているところを見せていただき、最終的には地域を診ているという印象を強く持ちました。初期研修を行う総合病院では、病気を診ることが求められることが多いですが、今後の医師人生において人を診る視点を持ちながら、日々精進していこうと感じました。

2つ目に実感したことは、診療所が多くの方の健康の担い手になっていることでした。外来では、各種検査とコロナワクチンとインフルエンザワクチンの予防接種を施行させていただきました。インフルエンザ予防接種は1日約20人、延べ300人近くに施行したと思います。1か月の間で、同じ人は1回しか接種しないうえ、接種しない方もいると考えると、本当に多くの方が、そよかぜ診療所を利用しており、地域の医療の担い手になっていることを実感しました。

大学病院や総合病院と診療所の違いを、受診する人や疾病、先生方の患者に対する接し方と様々なところで感じることができました。大変良い勉強になる研修になりました。

この研修で出会ったそよかぜ診療所の方々、患者さん、朝来の方々、本当にお世話になりました。皆様が幸せであるよう願っております。今度は桜で満開になった竹田城に訪れようと思います!ありがとうございました!